中富良野

森林公園のいきもの

Wild animals in Nakafurano-Forest Park

春・夏編

はじめに

きれい、かっこいい、かわいい。

生き物は興味深く、魅力的で、私たちに様々な感動をくれる存在です。

私は、生き物に感動し、最も興味をひかれるのは彼らの美しい毛並みやダイナミックな狩りの瞬間を感じたとき、つまりその姿や行動を「見た」時だと考えています。

そこでこのガイドブックでは、大きく鮮明な写真で生き物を紹介するように心がけ、撮影は姿だけではなくその生態の一部を切り取ったような「生きた写真」を撮ることを意識しました。

そして子どもたちや外国の方も写真だけでも楽しめるような、多くの方に親しみやすく、皆さんが生き物たちを「見た」の追体験ができるガイドブックを追求しました。

中富良野町に棲む多様な、そしてすばらしい生き物たちの姿をどうぞお楽しみください。

このガイドブックが、生き物たちの魅力を正しく伝え、皆さんの生き物への興味をより深める一助となることを心より願っております。

森林公園のいきもの

Wild animals in　Nakafurano-Forest Park

目次　Contents

■ 北海道だけで見られるいきものたち ---------- (3)
■ キタキツネ ---------- (5)
■ エゾリス ---------- (6)
■ オオルリ ---------- (7)
■ キビタキ ---------- (8)
■ メジロ ---------- (9)
■ ウグイス ---------- (10)
■ シマエナガ ---------- (11)
■ ツツドリ ---------- (12)
■ ヤマシギ ---------- (13)
■ トビ ---------- (14)
■ マミチャジナイ ---------- (15)
■ ハシブトガラス ---------- (16)
■ 色々な生き物の「色」の話 ---------- (17)
■ ノスリ ---------- (19)
■ ニホンアマガエル ---------- (20)
■ エゾアカガエル ---------- (21)
■ アオダイショウ ---------- (22)
■ シマヘビ ---------- (23)
■ カブトムシ ---------- (24)
■ エゾハルゼミ ---------- (25)
■ キアゲハ ---------- (26)
■ ジョウザンミドリシジミ ---------- (27)
■ トノサマバッタ ---------- (28)

北海道だけで見られる生き物たち

■道外とは大きく異なる生物相

北海道と道外には生息する生き物に大きな違いがあります。

これは遙か昔に、北海道がサハリンを通じてアジア大陸とつながっていたことに由来しています。

本州から津軽海峡を境に、エゾリス、エゾシカ、エゾヒグマなどの、日本では北海道にしか生息しない、独自の生き物たちが見られるようになります。

そのような北海道にしか生息しない生き物を、北海道の「固有種（こゆうしゅ）」と呼びます。

ミヤマカケス、シマエナガ、キタキツネなど、道外にも生息していますが、道外と北海道とでは違う姿を見せる生き物は、北海道の「地域亜種（ちいきあしゅ）」と呼び、生き物によっては全く別の種に見えるほど違いが見られるものもいます（シマエナガを例に挙げると、本州などに生息するエナガは目の上に眉状の黒い線がある、体色がより白い、などの違いが見られる。）。

中富良野町でも、そういった北海道でしか見られない生き物たちがたくさんすんでいます。

▲北海道の固有種（こゆうしゅ）
北海道にしかすんでいない種類の生き物です（日本国外には生息している場合もあります）。
エゾリス、エゾヒグマ、ヤマゲラなど。

▲北海道の地域亜種（ちいきあしゅ）
北海道と他の地域では別の特徴を見せる生き物です（固有種同様、日本国外には生息している場合があります）。
キタキツネ、エゾシカ、シマエナガなど。

■北海道だけで見られる生き物の代表種

▲エゾシマリス
日本では北海道のみに生息する固有種（国外では亜種が生息）。
背中の縦縞が特徴です。

▲シマエナガ
エナガの北海道亜種です。
本州にすむエナガと比べると眉斑という模様がなく、羽毛がより白い。

▲エゾライチョウ
北海道の固有種です（国外では亜種が生息）。
北海道レッドリスト【鳥類】改訂版（2017）では準絶滅危惧（Nt）として記載されています。

▲エゾサンショウウオ（幼生）
国内外含め、北海道だけに生息する北海道の固有種です。
外来種の移入や生息環境の圧迫による、数の減少が懸念されています。

■キタキツネ

学名　*Vulpes vulpes schrenki*

ネコ目　イヌ科

レア度　★★

体長　60～80ｃｍ

北海道で広く見られるキツネ

生息環境	移動範囲が広く、平地、森林、公園、農地、海岸、民家など、多くの環境で行動します。
見た目	全体的に明るい茶色の毛色で、腹側は白色をしています。足の先は靴下をはいたように黒いのが特徴です。
食べもの	雑食性で、ヘビ、トカゲ、カエル、ネズミなどの小動物や昆虫類の他、果実、木の実など、様々なものを食べます。

■エゾリス

学名　*Sciurus vulgaris orientis*

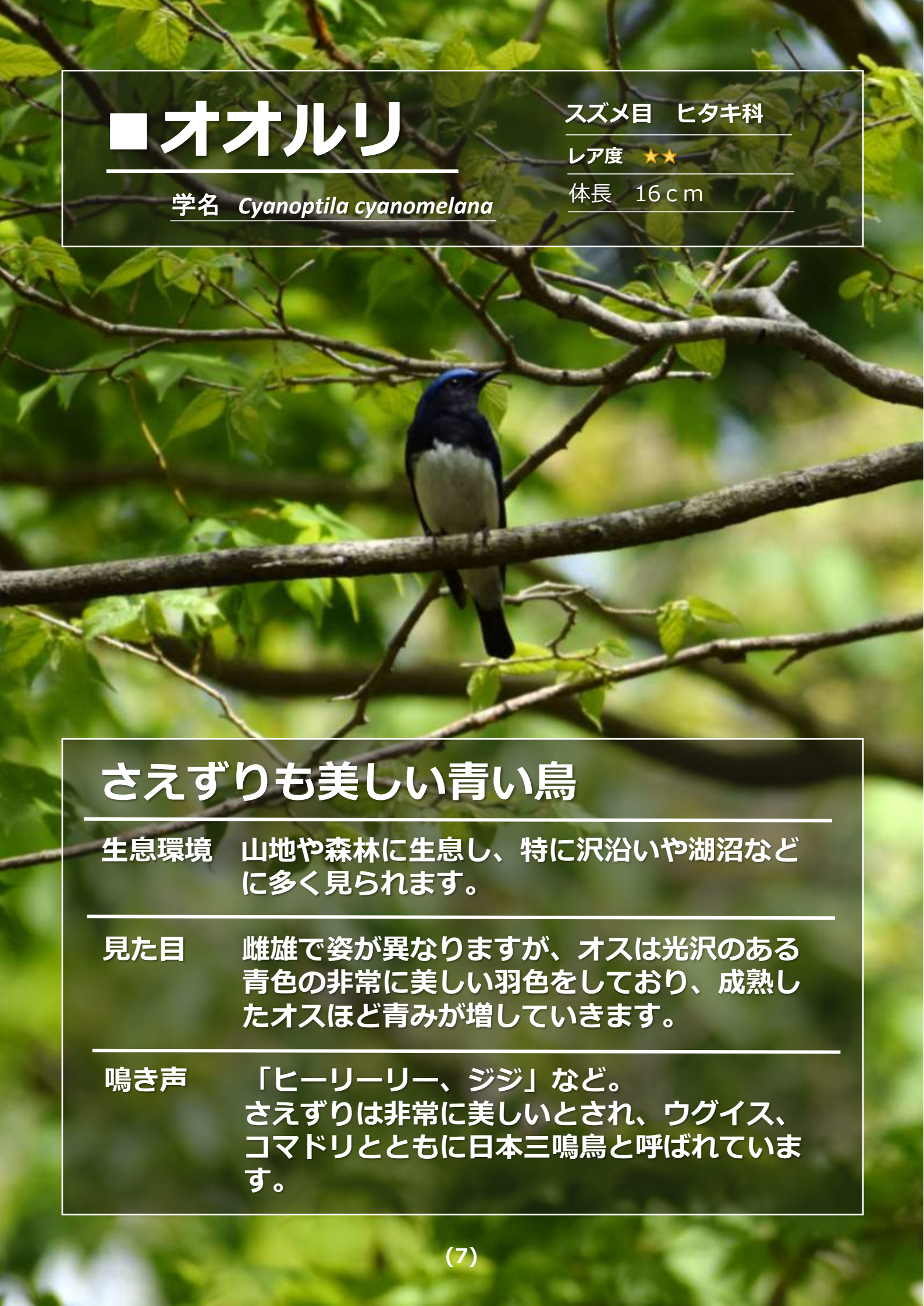
ネズミ目　リス科

レア度　★★

体長　27ｃｍ

夏には耳が短く見えます

生息環境	平地から山地の森林、木のある公園や民家など広く生息します。
見た目	冬毛では長かった耳の毛は、夏毛に生えかわるととても短くなり、耳が縮んだように見えます。
食べもの	雑食性で、ドングリなどの種子を主食としていますが、キノコ類、昆虫なども食べます。指が長く、器用にものをつかむことができ、手を使ってものを食べます



■オオルリ

学名　*Cyanoptila cyanomelana*

スズメ目　ヒタキ科

レア度　★★

体長　16ｃｍ

さえずりも美しい青い鳥

生息環境　山地や森林に生息し、特に沢沿いや湖沼などに多く見られます。

見た目　雌雄で姿が異なりますが、オスは光沢のある青色の非常に美しい羽色をしており、成熟したオスほど青みが増していきます。

鳴き声　「ヒーリーリー、ジジ」など。
さえずりは非常に美しいとされ、ウグイス、コマドリとともに日本三鳴鳥と呼ばれています。

■キビタキ

学名　*Ficedula narcissina*

スズメ目　ヒタキ科

レア度　★★

体長　14ｃｍ

目の覚めるような鮮やかな黄色

生息環境　夏鳥。平地から山地の森林に生息します。全道的にも普通に見られます。

見た目　オスは背中側は黒く、頭には眉のような黄色い模様が見られます。のどは鮮やかなオレンジ色で胸から腹にかけては淡い黄色です。メスは　オスとは打って変わって、背中側はオリーブ色、腹側は灰がかった白の目立たない色をしています。

■メジロ

学名　*Zosterops japonicus*

スズメ目　メジロ科

レア度　★★★

体長　12ｃｍ

よく目立つ白いアイリング

生息環境　平地から山地の森林。全道的に見られますが、道北ではあまり見られません。

見た目　アイリングと呼ばれる目の周りを囲む白い輪状の模様が特徴で、名前の由来でもあります。体の上面は明るい黄緑色で腹が白、よくウグイスと混同されます。

食べもの　昆虫を食べますが、花の蜜や果実なども好んで食べます。

■ウグイス

学名　*Cattia diphone*

スズメ目　ウグイス科

レア度　★★

体長　14ｃｍ

日本で一番有名な歌手？

生息環境　平地から山地の森林。やぶの中で行動するのでなかなか姿を見られない野鳥です。

鳴き声　「ホー、ホケキョ」などと鳴きます。
さえずりは非常に美しく、ウグイスを知らない日本人はいないほど有名です。
日本三鳴鳥の一つにも数えられ、古くから親しまれています。
春になると声が聞こえてくるため「春告げ鳥」という別名もあります。

■シマエナガ

学名　*Aegithalos caudatus　japonicus*

スズメ目　エナガ科

レア度　★★

体長　14ｃｍ

夏にはほっそり、雪の妖精

生息環境　平地から山地の森林で見られます。
日本では北海道だけに生息する固有亜種です。

見た目　小さくて白い体に、長い尾が特徴です。
夏には羽毛が生えかわり、冬羽のころころとした丸い体型から、ほっそりとした見た目に変化します。

食べもの　主に昆虫類やクモ類などを食べています。
その他、植物の種子や木の実なども食べます。

■ツツドリ

学名　*Cuculus optatus*

カッコウ目　カッコウ科

レア度　★★

体長　33ｃｍ

どこからか聞こえる声の正体

生息環境　平地から山地の森林。全道的の森林で普通に見られます。

見た目　カッコウによく似た見た目をしています。
背は灰色で、腹は白く黒い横じまがあります。

鳴き声　「ポポッ、ポポッ…」と抑揚のない声で単調に鳴きます。
あまり開けた場所に姿を見せず声がよく通るので声だけが聞こえることも多い鳥です。

■ヤマシギ

学名　*Scolopax rusticola*

チドリ目　シギ科

レア度　★★★★

体長　34ｃｍ

360度、全方向からの危険を察知

生息環境	平地から山地の森林。北海道で繁殖し、冬にはあたたかい地域へ移動する夏鳥です。
見た目	大きな目と長いくちばしにずんぐりした体型が特徴です。
特徴	大きな目は視野がとても広く、ほぼ360度すべてを見通せます。 夜行性であることと、非常にカモフラージュ性の高い体色によって見つけるのが難しい野鳥です。

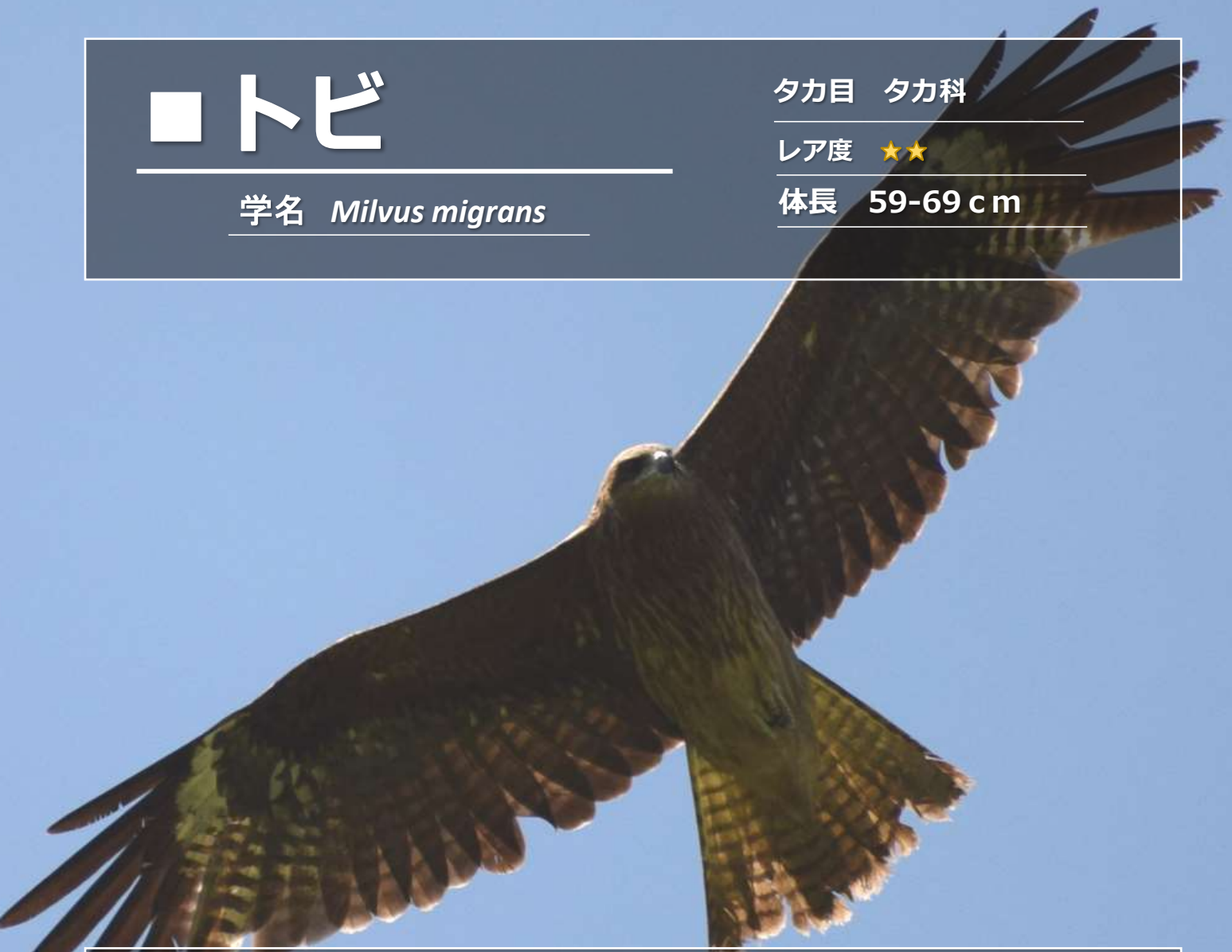
■トビ

学名　*Milvus migrans*

タカ目　タカ科

レア度　★★

体長　59-69ｃｍ



上空から獲物の姿を捉える鋭い目

生息環境	海岸や山地によく見られます。 市街地の上空などにも現れます。
見た目	全身が明るい茶色で、非常に大きい野鳥です。よく、羽ばたかずにくるくると円を描くように上空高くを飛んでいます。
視力	高高度から獲物を探すトビの目はとても優れていて、その視力は8.0に相当すると言われています。この優れた視力で上空にいながら獲物の姿を捉えることができるのです。

■マミチャジナイ

学名　*Turdus obscurs*

スズメ目　ヒタキ科

レア度　★★★★

体長　22ｃｍ

白いまゆげがチャームポイント

生息環境	平地から山地の森林。旅鳥のため、姿を見られる期間が限られています。
見た目	目の上下が白く、特に上の部分は目の後ろまで伸び、まゆげのように見えます（眉斑）。頭は暗い灰色で、背中側の羽は茶色です。他のツグミ類とは、体色と眉斑で見分けられます。
食べもの	春と秋に北海道に飛来し、春には昆虫類、秋には木の実・果実などを食べています。

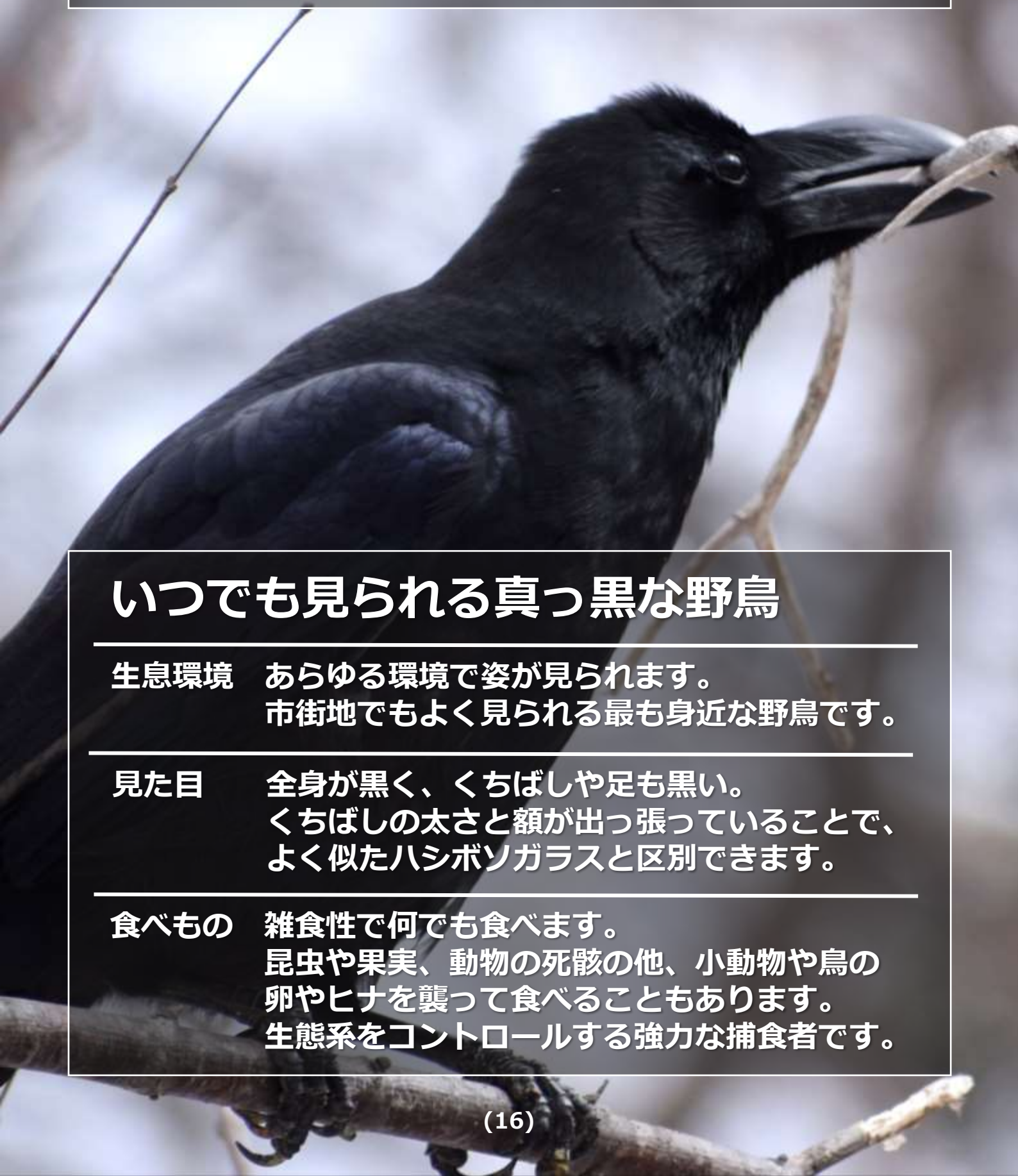
■ハシブトガラス

学名　*Corvus macrorhynchos*

スズメ目　カラス科

レア度　★

体長　57ｃｍ



いつでも見られる真っ黒な野鳥

生息環境　あらゆる環境で姿が見られます。
市街地でもよく見られる最も身近な野鳥です。

見た目　全身が黒く、くちばしや足も黒い。
くちばしの太さと額が出っ張っていることで、
よく似たハシボソガラスと区別できます。

食べもの　雑食性で何でも食べます。
昆虫や果実、動物の死骸の他、小動物や鳥の
卵やヒナを襲って食べることもあります。
生態系をコントロールする強力な捕食者です。

色々な生き物の「色」の話

■このアマガエル、緑じゃないよ！

ニホンアマガエルは、黄緑色の小さなカエルです。

しかし、捕まえてプラケースに入れて飼っていたら、いつの間にかカエルが灰色になっていた！という経験をされた方はいませんか？

これは、周りの環境に応じて体の色を変化させるアマガエルのユニークな能力によるものです。

草むらでは緑に、田んぼでは灰色や茶色っぽくといった具合に、アマガエルは自在に体色を変化させます。（多少時間はかかりますが）

この能力によって、どこでも目立たず天敵におそわれづらい色に変化し身を守ることができます。

アマガエルたちは過酷な野生を生き延びるため、「変色」能力を獲得したのです。

ヒラメなども同じように色を変化させる能力を持っていますが、こちらは身を守ると同時に獲物の目をあざむき、スムーズに狩りを進めるための攻撃的な迷彩の意味も持ちます。

時には身を守り、時には狩りを有利に運ばせる。体色は、野生を生きる生き物たちにとって非常に重要な役割を果たしています。

■変色したニホンアマガエル

どちらもニホンアマガエルですが体色が異なります。
色が変化した結果、まるで別種に見えるほどの違いが見られます。
周囲に溶け込むような色や模様で身を隠したり、危険な生き物に姿を似せたりすることなどを「擬態（ぎたい）」と呼びます。
ニホンアマガエルは周囲の色に合わせて、自分の色も変えることで擬態を行っているのです。木を隠すには森の中、草むらに隠れるには緑色に、というわけです。

■黒いヘビ！もしかして新種？

フィールドで黒いヘビを見つけて、図鑑で調べたら載っていない。

もしかして新種かもと思ったあなた、姿は違って見えますがその黒いヘビはおそらくシマヘビです。ですが、目は赤くないし、シマもほぼなく、一見シマヘビには見えません。

これは、そのシマヘビが黒化（黒変）と呼ばれる突然変異を起こしているからです。

（※ニホンマムシや、道外ではヤマカガシといった毒蛇にも黒化が見られる場合もあるので注意）

黒化は、先天的に黒い色素（メラニン）を多く生成してしまう遺伝子の異常で、体の色は全体的に影響し、目や口の中など体のあらゆる所が黒っぽくなります。

他にも、白いカラスや青いアマガエルなど、本来の体色とは異なった色の個体が生まれてくることがあります。これらもほとんどは色素の異常によるものです。

非常に稀で、理由も詳しくはわかっていませんが、野生下でもそういった変わった色の生き物たちが見られることがあります。

◀シマヘビの黒化個体、通称カラスヘビ。この個体は目は暗い色に変化し、ほぼ全身が黒くなっています。（一部は白くまだらになっており、縞の名残が確認できます。）
このような黒化個体は他の種類の生き物でも確認されていますが、とても珍しいものです。
しかし不思議なことにシマヘビの黒化は野生下でも比較的よく姿を確認できます。

▶ハツカネズミのアルビノ（白化）個体。アルビノは黒い色素を生成しない（あるいは生成される量が非常に少ない）先天的な遺伝子の異常により、全身が白っぽくなる変異です。
目にも影響を及ぼし、色が赤くなることが多いです。
体色が非常に目立つので天敵におそわれやすく、生き残る確率が低いのですが、野生下でも稀に見られます。
白い体に赤い目を持つ神秘的な姿のアルビノは、古くは神様やその使いとされていました。（山口県岩国市の白蛇などが有名）

■ノスリ

学名　*Buteo buteo*

タカ目　タカ科

レア度　★★★

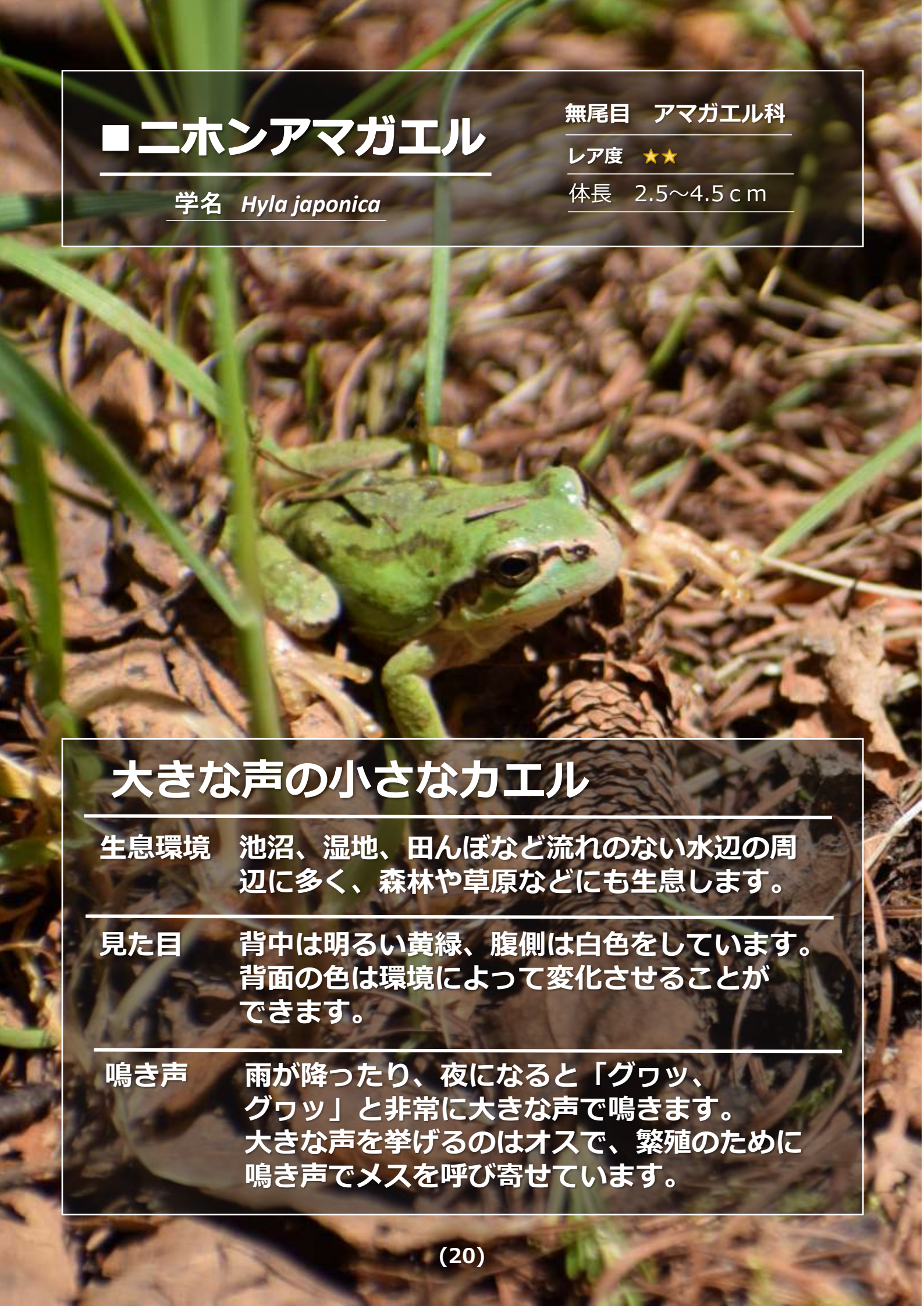
体長　50～56ｃｍ

低空を飛ぶハンター

生息環境　森林、農耕地、川原、海岸など広く見られまる、身近な猛禽（もうきん）類です。

食べもの　ネズミやヘビやカエルなどを襲って食べる肉食の鳥です。

名前　獲物を狩る際に低空飛行を行います。
そのため、「野を擦るほど低く飛ぶ鳥」という意味を込めて、野擦り（ノスリ）と名付けられたといいます。



■ニホンアマガエル

学名　*Hyla japonica*

無尾目　アマガエル科

レア度　★★

体長　2.5～4.5ｃｍ

大きな声の小さなカエル

生息環境　池沼、湿地、田んぼなど流れのない水辺の周辺に多く、森林や草原などにも生息します。

見た目　背中は明るい黄緑、腹側は白色をしています。背面の色は環境によって変化させることができます。

鳴き声　雨が降ったり、夜になると「グワッ、グワッ」と非常に大きな声で鳴きます。大きな声を挙げるのはオスで、繁殖のために鳴き声でメスを呼び寄せています。

■エゾアカガエル

学名 *Rana pirica*

無尾目　アカガエル科

レア度　★★

体長　4.6~7.2cm

北海道にすむ「美しい」カエル

生息環境　平地や森林、湿原や湿地などで見られます。国内では北海道にのみ生息します。

見た目　背面は暗い褐色から赤みをおびた褐色で腹は白からオレンジ色です。口の先から目の後ろまで大きな濃い褐色の線があるのが特徴です。

学名　エゾアカガエルの学名にはアイヌ語が使われていて、学名を*Rana pirica*（ラナ・ピリカ）といいます。
ピリカはアイヌ語で「美しい」という意味の言葉です。

■アオダイショウ

有隣目　ナミヘビ科

レア度　★★★

体長　100-190ｃｍ

学名　*Elaphe climacophora*

オリーブ色の大きなヘビ

生息環境　平地、森林、公園、農地、民家など。
人気がある場所でも比較的よく見られます。

見た目　体色は緑がかったオリーブ色や灰色など。
北海道に生息するヘビでは最大種です。
幼いアオダイショウはニホンマムシに似た模様をしています。

食べもの　肉食。ネズミ、小鳥、鳥の卵などを食べます。
人の家に棲みついて害をなすネズミを捕食するため、古くは家の守り神とされていました。

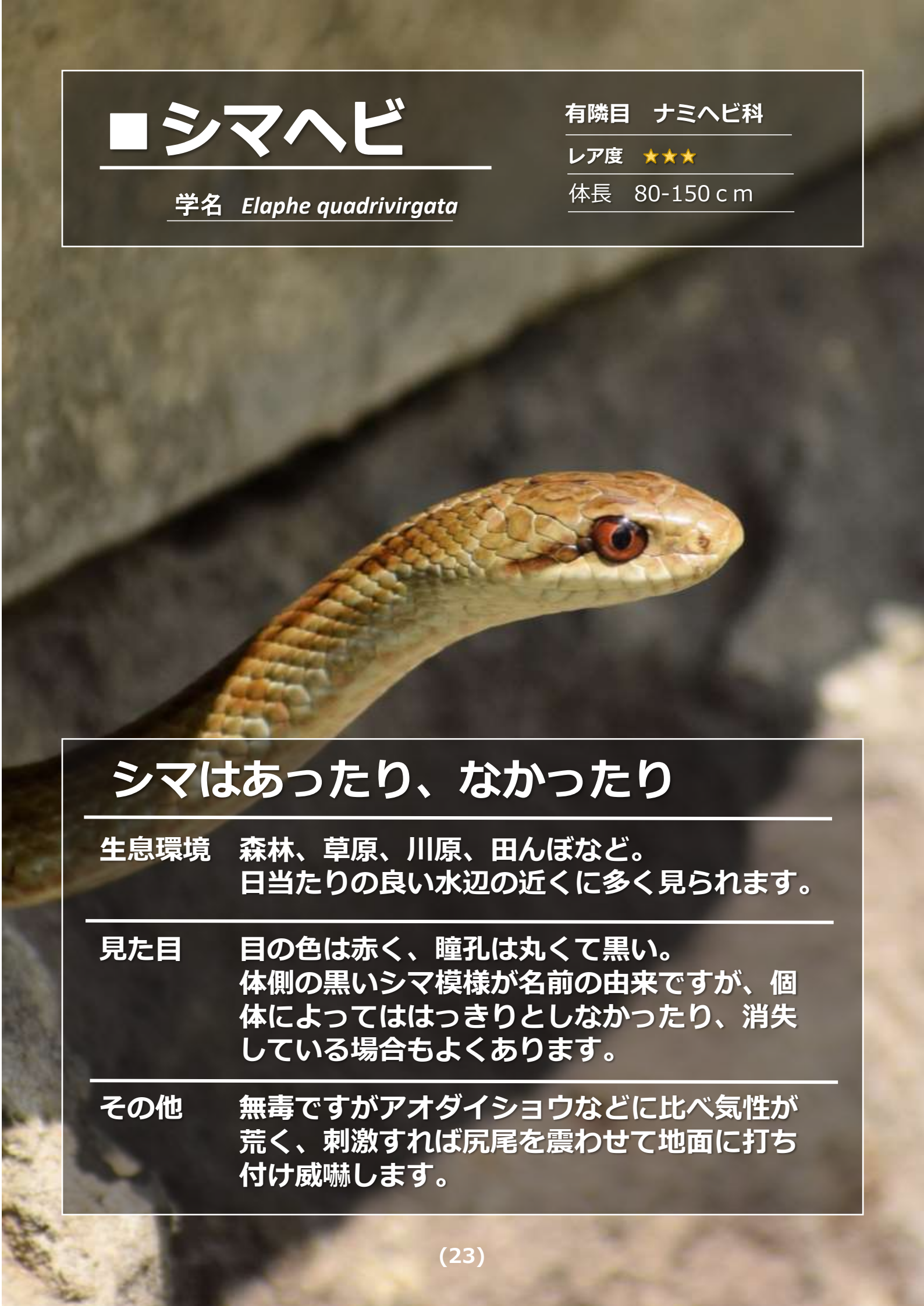
■シマヘビ

学名　*Elaphe quadrivirgata*

有隣目　ナミヘビ科

レア度　★★★

体長　80-150ｃｍ



シマはあったり、なかったり

生息環境　森林、草原、川原、田んぼなど。
日当たりの良い水辺の近くに多く見られます。

見た目　目の色は赤く、瞳孔は丸くて黒い。
体側の黒いシマ模様が名前の由来ですが、個体によってははっきりとしなかったり、消失している場合もよくあります。

その他　無毒ですがアオダイショウなどに比べ気性が荒く、刺激すれば尻尾を震わせて地面に打ち付け威嚇します。

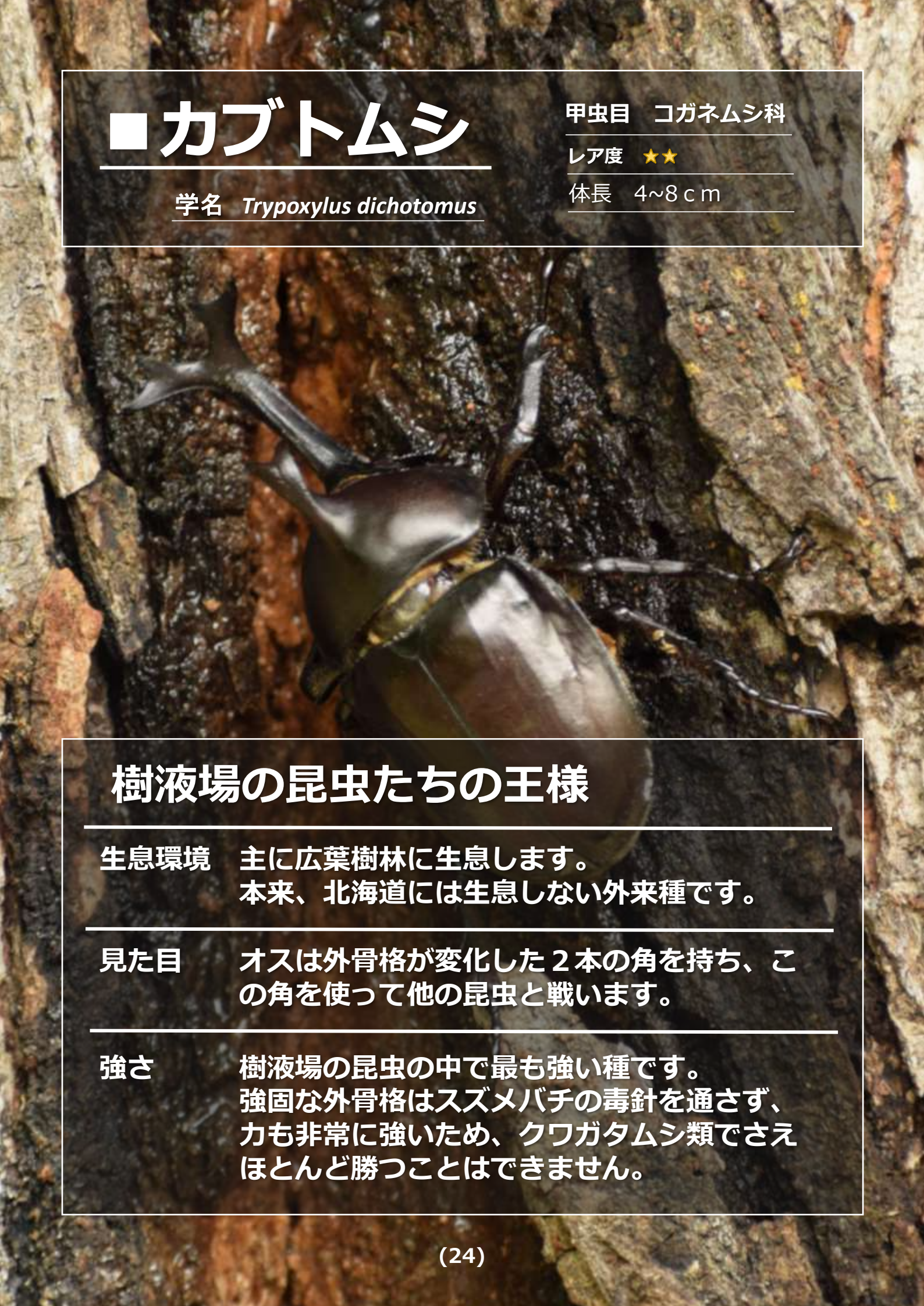
■カブトムシ

学名　*Trypoxylus dichotomus*

甲虫目　コガネムシ科

レア度　★★

体長　4~8ｃｍ



樹液場の昆虫たちの王様

生息環境	主に広葉樹林に生息します。 本来、北海道には生息しない外来種です。
見た目	オスは外骨格が変化した２本の角を持ち、この角を使って他の昆虫と戦います。
強さ	樹液場の昆虫の中で最も強い種です。 強固な外骨格はスズメバチの毒針を通さず、力も非常に強いため、クワガタムシ類でさえほとんど勝つことはできません。

■エゾハルゼミ

カメムシ目　ハルゼミ科

レア度　★

体長　2.5～3ｃｍ

学名　*Terpnosia nigricosta*

鳴き方に個性あり

生息環境　森林に生息しますが、緑のある公園などでも姿を見ることができます。

見た目　緑みを帯びた明るい茶色のセミです。頭と胸は緑がかった色をしています。

鳴き声　「ミョーキン、ミョーキン、ケケケケ……」と特徴的な声で鳴きます。鳴き方には個性があり、鳴くのが上手なオスと下手なオスがいます。

■キアゲハ

学名　*Papilio machaon*

チョウ目　アゲハチョウ科

レア度　★★

翼幅　6.5～8.6ｃｍ

あなたの庭でも見られるチョウ

生息環境　主に草原や森林に生息しますが生息範囲は広く、様々な場所で観察できます。

見た目　黄みがかったクリーム色を基調に、青、赤、黒、オレンジの模様がある鮮やかな羽色です。

食べもの　成虫は花の蜜を吸って生活します。幼虫はセリ科の植物を食べて育ち、にんじんやパセリといった農作物の葉も食べてしまうことがあります。

■ジョウザンミドリシジミ

学名　*Favonius taxila*

チョウ目　シジミチョウ科

レア度　★★

翼幅　3～4ｃｍ

金属光沢をもつ美しい羽

生息環境　森林などに生息。
特にブナ科の樹木が多い環境を好みます。

見た目　金属光沢をもつ青緑色の美しい羽色が特徴です。
この羽は構造色といって、角度によって違う色に見える仕組みになっています。

名前　北海道の定山渓（じょうざんけい）で発見されたため、ジョウザンミドリシジミと名付けられました。

■トノサマバッタ

学名　*Locusta migratoria*

バッタ目　バッタ科

レア度　★★

体長　3.5～6.5ｃｍ

跳躍と飛翔で大ジャンプ

生息環境　イネ科の植物の生える草原に生息します。
河川敷の草むらでよく見られます。

見た目　長くまだら模様のある羽と発達した後ろ足が特徴です。体の色は緑色のタイプと茶色がかった灰色のタイプがいます。

ジャンプ力　他のバッタ同様、発達した後ろ足で地面を蹴って大きく跳躍します。
それに加えて長い羽を広げて飛翔し、非常に長い距離をジャンプします。

主な参考文献

河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳（2016）『新訂　北海道野鳥図鑑』［第2版］亜璃西社

徳田龍弘（2015）『改訂版　北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑』［改訂版］北海道新聞社

大橋弘一（2016）『北海道野鳥観察地ガイド』［第2版］北海道新聞社

安西秀明・箕輪義隆・瀬古善貫（2010）「見る読むわかる野鳥図鑑」日本野鳥の会

日本野鳥の会（2018）「フィールドガイド日本の野鳥」［増補改訂新版］日本野鳥の会

山口喜盛（2017）『フィールドで出会う哺乳動物観察ガイド：生態写真でわかる探し方や見わけ方のポイント』　誠文堂新光社

熊谷さとし（2011）『哺乳類のフィールドサイン観察ガイド』文一総合出版

松橋利光（2017）「その道のプロに聞く　ふつうじゃない　生きものの見つけかた」大和書房

ネイサン・エメリー（2018）「実は猫よりすごく賢い鳥の頭脳」渡辺智訳　株式会社エクスナレッジ

杉田昭栄（2018）「カラス学のすすめ」株式会社緑書房

叶内拓哉・高田勝（2018）「原寸大写真図鑑　羽」［増補改訂版］文一総合出版

「北海道レッドリスト」〈htpps://www.harp.lg.jp/opendata/697.html〉（参照2019-7-25）

北海道（2010）「北海道の外来種リストー北海道ブルーリスト2010ー」（参照2019-8-9）（www.pref.Hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/bluelist/bluelist_top.htm）

制作
中富良野町地域おこし協力隊　田中信哉

制作協力
富良野市博物館　様
富良野市博物館・泉団　様
富良野市博物館・澤田建　様
長利　隆一　様